

# 中国留学体験レポート

国際学部国際文化学科

学籍番号：21018073

氏名：田中理子

私は、本学の留学派遣制度を利用し、2019年8月26日から2019年12月28日までの125日間、中国北京にある北京師範大学に留学してきました。この4か月間の様々な体験、感想をここに記そうと思います。

まず学習面ですが、ほかの国の学生と比べて日本人の学生は、中国語のレベルが低いことに衝撃を受けました。私と同じクラスには日本を含め8か国の生徒がいましたが、漢字を書ける日本人はライティングに関しては有利でした。しかし、コミュニケーションの要であるリスニング、スピーキングはほかの国の学生に比べ非常に劣っていました。そのため、授業中も先生の話を理解することができず、上手くコミュニケーションも取れないので最初はかなり焦りました。しかし予習復習を毎日し、自分の苦手なところや、予習で理解できなかったところを把握してから授業に参加するようになってからは、かなり授業についていけるようになりました。さらに、私は国際交流もかねてバドミントンの大会に参加し、他国の友達ができ、日常的に中国語を使う機会が増えました。その甲斐あってか、授業にも自ら疑問を持って参加できるようになり、先生やクラスの友達の冗談を聞き取り、笑えるようになりました。文字から学べることも多いと思いますが、実際に交流して日常的に使う単語を覚えるためには、このような交流が必要だと改めて感じました。スポーツを通して様々な国の学生と仲良くなり、中国だけでなく、各国の良さを知れたのはとても貴重な体験だったと心から思います。彼らのおかげで多くのことを学び、多様な価値観を理解しあうことの大切さを知りました。

生活面では、正直なところ日本とのギャップが激しく、受け入れがたい部分もありました。しかし、個人的にはその刺激が楽しく、毎日新しい発見があることに喜びを感じていました。日本に帰ってきて約1か月が経ちますが、最初は受け入れがたかった中国の文化が今では恋しく思います。また、私たちが留学した2019年は中国建国70周年の節目であり、建国パレードや、町の装飾からも国民の中国へ対する母国愛がとても強く感じられました。それと同時に、警備も厳しくなることが多々あり、移動の際にはパスポートが手放せなかったのを覚えています。

北京の名所も多く回りました。中国は公共交通機関がとても安く、発展しているので、どこでも気軽に移動ができました。万里の長城、故宮、天安門、動物園とほかにも数々の名所を回りましたが、そこで見る中国の歴史やスケールに圧倒されました。10月には内モンゴルへ行きました。砂漠へ行きラクダに乗ったり、ゲルに留まったりと、日本にいては感じる

ことのできない刺激に心を揺さぶられました。さらに、このモンゴル旅行を通して日本最難関の大学に通う方と交流を持つことができ、旅行が終わった後も勉強に対するアドバイスやHSKの攻略など多くのことを教わったり、食事をする機会がありました。思わぬ場面で素晴らしい出会いがあったことは本当に奇跡だと思います。

留学がこんなに楽しい思い出になったのも、いつも近くで支えてくれた友人、留学を勧めてくれた家族のおかげだと心から思います。留学の最中は自信を無くし、ネガティブな思考に走ることもありましたが、彼らのおかげで乗り越えることができました。留学を通して、対人関係の大切さを改めて学ぶことができました。

この留学で吸収できたことを無駄にしないよう、今後も努力し、成長し続けたいと思います。

## 添付

